

「地球を光の星へ」

20歳のジェンと18歳のミーシャは、アメリカの大学に通う中国人です。「東アジアにおける持続可能な生活モデル」をテーマにした本を出版したいということで、取材の一環としてここを訪れました。訪問目的は、木の花ファミリー創業者いさどんへのインタビューです。

ジェン：

どういった経緯で木の花ファミリーを創立することになったのですか？

いさどん：

まず、私は25歳から建築内装業の会社を経営していました。色々なお店や家に行き、見た目を綺麗にするのが仕事でしたが、仕事が終わって帰ってくる私の車には沢山の廃棄物が付いてきました。世の中の見た目を綺麗にする職業が、結果的に化学物質を沢山使い、地球を汚しているのではないかということに気づいたのです。今から35年くらい前の話ですが、当時は自分で廃棄物を燃やして処分するのが経済的で効率良く、当たり前のように休みになると、駐車場で廃棄物を燃やしていました。しかし、半日もすると化学物質の煙で気分が悪くなり、きっと地球環境にも悪いだろうと思っていました。私は経営者だったので、一生その職業を続けることは出来ましたが、それは世の中を汚しながら自分が生きていくことになるということに気づいたのです。もっと世の中のために貢献出来、自分が胸を張って生きられる生き方を探そうと思いました。

もう一つは、私が30歳の時に霊的な体験をした結果、人々の心を感じられるようになりました。内装業の仕事で色々な家に行くことが多かったのですが、当時日本では家庭内暴力の問題があり、若者たちが家の中で荒れていました。私が依頼されるのは部屋の模様替えや修理でしたが、家に行くと、その家に住んでいる人たちの夫婦や親子などの人間関係が、その家の空気を感じられました。模様替えや修理を依頼されているのだから、部屋の壊れている部分はもちろん直す必要があります。しかし、依頼した目的を聞くと、「子供の情緒安定です」という答えが返ってきました。そこで私が言うのは、「部屋の模様替えは、子供の情緒安定には少しは効果があります。しかし、もっと大切なのは家族関係、特に夫婦関係の見直しです。そこに一番の原因があります」と伝え帰ってくると、次からは「その話をもっと聞きたい」という電話がかかってくるようになりました。

そうやって、私は30年ほど前から人々の問題事、家族関係や親子関係、夫婦関係、それから病気のこと、会社の経営が行き詰まって悩んでいる人などの色々な相談に乗るようになりました。しかし、当時30歳の自分には、それに応えられるほどの人生経験もなければ、そういった勉強もしていませんでした。しかし、不思議なことに30歳の時の霊的な体験によって、私は自分の知らないことを人に語るようになったのです。そして、相手から相談を受けながら、自分自身も自分が話している言葉から学ぶ時代を過ごしました。そうやって、昼間は内装業の仕事をし、夜には自分の家を訪れる沢山の人の相談に乗るようになったのです。色々な問題に答えながら、家族関係が直ったり、会社が立ち直ったり、病気が治ったりする現象が起きるようになりました。

しかし、そこでは悩み事が起きてきました。一つは、皆さんに伝える言葉を自分も学ぶことで、それまで私が持っていた「お金が欲しい」とか「贅沢がしたい」とか「良い車に乗りたい」といった一般の人が持っている欲望を否定することになりました。また、そういったアンバランスな欲望を持つことによって、対立や問題事を抱えているということがわかってきました。私自身会社も経営していましたし、そういった欲望が沢山あり、それが自分の中からなくなっていくことが大切だと頭でわかってはいても、なかなかすぐには取れないという葛藤が自分の中に生まれていました。2年くらい辛い日々が続きました。しかし、この優れた考え方は自分にとって大切なものである、ということはわかっていましたから、それを捨てるという気にはなれませんでした。

もう一つの悩みは、相談に来る人たちは問題事が解決されると、学びを求めず訪れなくなることです。お金を取ったり、宗教のように組織を創れば、人々の集まりは維持されたのかもしれませんが、私はお金を取らないし組織も創りませんでした。霊的には、「組織を創るのではない。心を語ってお金を得ることをしてはいけない」と言われていました。人々の心の中にある種が行動によって表われ、それにふさわしい出来事が起きてきます。自分の心を正すために問題事が与えられていることに気づかず、問題事を解決することだけに目的を持っているから、問題事が解決されると人々は離れていく。人間社会には色々な問題事がありますが、それは人間の想いとこの世界の仕組みがバランスを欠いていることによって、他のものの存在を無視し、自分にとって都合の良い世界を創ろうとするから起きてくるのです。眼の前に現れてくる出来事から学び、成長することを目的に生まれてきていることに気づく人は少なかったのです。

というわけで、寂しい想いをしていたのですが、何年かするうちに「その心をもっと勉強したい」という人たちが少しずつ現れてくるようになりました。そういった人たちは、「問題事がなくてもその優れた心を学んでいきたい」という姿勢を持っていました。そして、私がそういった心を受け取るようになってから9年経った頃に、「富士山に登りなさい」という言葉が天から降りてきました。「富士山に登り日の本の頂点に立ち、日の出前に命を受けなさい」と言われ、1991年の8月11日の夜に富士山に登り始めました。そして、日の出前に富士山の頂上に立ち、そこで受けた命は、「その心、これからは日の本の国全体に説くがよい。今まで学んできた心を、富士山を発信基地にして世界中に広めなさい。その生き方はこれからの人々の見本になるであろう」というメッセージでした。それから3年間、毎年1回富士山に登る登山会が出来ました。山に登るということは、人生の困難を乗り越え生きていく人生そのものです。そうやって富士登山の仲間が出来、それは心の学びの仲間でもありました。

1994年、私はその仲間に富士山麓に移住して生活をするを伝えました。当時、沢山の人が共に学んでいましたが、その中の大人15名と子供5名がここで共に生活を始めるようになりました。この生き方は、自然やこの世界に生かされていることを学ぶこと。自然の仕組みのままに生き、命を最も大切にす調和の生き方です。人々はお金や物を求めるばかりに沢山の命を犠牲にしていますが、全ての命はつながり、共に存在しています。万物は一つであるということをもう一度自然から学び、自然の姿そのままに生きるということを実践し始めたのです。当時の私には、それが世界にどのように発信出来るのか、

とても見当が付きませんでした。しかし、こうやってこの生活を始めて17年目に入り、私の意志とは別に、若くて能力のある人たちがここに集まるようになり、非常に多様性のある活動が出来るようになり、世界中からここを訪れる人が増えてきました。

今でもそうですが、私は常に天と会話しながら日々を生きています。自分の目的を達成するのではなく、この世界を創っているものの意志を忠実に表わすことを私の人生の目的にしています。

とても長い長い物語をほんのちょっとだけかいつまんでお話ししました（笑）。

ジェン：

ワンネスについてのお話がありましたが、自然の中にある万物がどのように一つだと考えるのですか？ また、人間はそのワンネスの中でどのような役割を果たしているのですか？

いさどん：

それはとても良い質問ですね。重要なことです。自然というのは利他の仕組みで成り立っています。利他というのは、自分が存在することによって他を存在させる。他が存在することによって、自分が存在させられるという関係です。この世界には、どんなものも独立して単独で存在しているものはありません。区切ってみれば、家族や社会、国家、人類、地球、太陽系、銀河、宇宙と規模が変わるだけで、それぞれの段階で「一つである」ということです。そして、私たち一人の人間ですら、いくつかの機能、細胞、そして最後は素粒子といったものが、一つ一つ独立したものでありながら、それが連携してそれぞれの役割を果たしながら全体を創っています。人間の体一つをとっても小宇宙だということです。だから、土に生える植物は、一方的に土から栄養を摂っているのではなく、土を作り、その土から自分が育てられているという関係です。さらに、植物を食べる虫がいて、さらにその虫を食べる虫がいます。人間は勝手に植物を食べる虫を害虫と呼び、それを食べる虫を益虫と呼びますが、それは役割の違いだけです。そして、さらにそれを食べる小動物がいて、動物がいて、獣がいて、それを生態系と言うのです。

ライオンとシマウマの関係で言うと、ライオンがシマウマを食べるのを区切って観れば、弱肉強食に観えます。しかし、ライオンがいなければシマウマは草を全部食べ尽くしてしまい、シマウマは存在出来なくなってしまいます。だから、ライオンはシマウマのために存在していると言えます。生まれ過ぎた子供たちや年老いたシマウマ、それから病気になったもののように弱いものを食べるようになっています。そして、彼らは自分たちのお腹が満たされると、人間のように将来のために蓄えるようなことはしません。今を忠実に生きています。ライオンは生きるためにシマウマを食べているのですから、シマウマの命は殺されたのではなく、ライオンの命に変わったということになります。草の命がシマウマになり、それがライオンになり、ライオンは排泄したり、いつか死んだ時に土に還っていきます。土には小動物や見えないバクテリアなどがいて、命の循環を円滑にするための働きをしています。そういった完全なる調和の世界、循環の世界の中で私たちも存在しています。

宇宙は始まった時から変化し続け、循環し、巡り巡っています。増えもせず減りもせず、変わらない状態をくり返しています。死のない世界で、私たちは生きています。元々この宇宙に始まりがあったとして、そこから銀河が出来、太陽系が出来、そして地球が出来、生命が誕生しました。そして今、私たち一人一人が存在します。それは、先にこの世界があったということです。人間は後からこの世界に生み出されたということです。

しかし、人間たちは今、自分たちの中から湧き出てくる欲望やエゴを叶えることが幸せや豊かさだと思っています。自然の利他の精神に対して、利己的です。人類はこの高い能力と大きな影響力をどのように使えばいいのか、ということ地球規模のメッセージとして受けています。人間のエゴ的な発想や人間にとって都合の良い生き方ではなく、人間は元々この世界の中に生み出されたのですから、「この世界の目的に応じて、人間の高い能力を使い、万物が幸せになるように生きていきなさい」ということだと思のです。人間が、自分に近いものの側に立って損得を考えて生きたら、今のような世界が出来ます。私たちの細胞一つ一つが一人の人間を構成しているように、私たちは地球にとって細胞のようなものです。私たちの思考に基づいて手や口が動くように、地球の意志のままに本来私たちは生きていくべきです。そろそろ人類は、自分たちの側から自分たちのあり方を見つめるのではなく、地球の意志の側から人類のあり方を捉え、地球上で最も高い能力を持つ責任からこの地球上で生きていく必要が生まれてきています。

簡単なことです。自分の内側からものを観ると同時に、外側からもものを観るというだけです。そのバランスさえ取れば、地球はすぐにでも地上天国になります。私は、「それを生活として実践して世の中に示しなさい」というメッセージを天からいただきました。言葉で語る優れた人たちは沢山いますが、実際にその通りに生きている人たちはどれほどいるのでしょうか。優れた人たちが世界中でサミットをして集まっても、この状況はいつまでたっても変わりません。そろそろ私たちは、それを、生活を通した行動で示す時代に来ています。

ジェン：

素晴らしい答えをいただいて、感動しています。

いさどん：

一人一人の小さな生活が集まって、今の地球の状態を創っています。だから、私たちはトップダウンで上から指示をもらうのではなく、一人一人が目覚め、この世界を健康な状態に持っていくことが大切です。過去には優れた人々や権力のある人たちがこの世界をリードしてきましたが、これからは一人一人が目覚め、全ての人がキリストやブッダのような精神を持って生きていく時代です。未来は私たち一人一人の気づきの中にあります。それを示すために私たちはこの生活を実践しています。それに興味を持って訪れる人たちは神様が選抜されます。もちろん、あなたたちもですよ。

ジェン：

ありがとうございます！

ミーシャ：

実践に移すということで、例えば私たちはどのような行動をすべきなのでしょう？皆がエコビレッジやコミュニティを創るわけではないですよね。それ以外に、具体的にどういった実践の方法があるのでしょうか？

いさどん：

まず大切なのは、手段が重要なのではないということです。手段は結果としてついてきます。だから、コミュニティも手段にしか過ぎないのです。私たちは現在、地球という一つの村、一つのコミュニティに住んでいる村人ですから、そのことに気づけばいいだけです。つまり、その気づきが大切であり、自分の中から湧き出てくる欲望だけを叶えていこうという思考では、気づきは生まれてきません。

私たちは生きてると色々なことに会います。重要なのは、問題のない時はそのまま行けばいいということです。しかし、問題が自分の目の前に現れた時には、自分の中に問題を引き起こす種があるということに気づき、自分の中を見つめることが大切です。自分の中の何が不調和や対立などの問題事を引き寄せているのか。病気でも人間関係でもそうですが、小さなことでは自分自身に関わること、さらにもう少し大きなことと言えば家族のこと、それから地域のこと、国家のこと、人類のこと、地球全体のこと、と自分の意識が広がれば広がるほど大きなことで問題事を感じるようになっていきます。

自分の内側から問題事の種が出て、その結果、現象が現れてきます。だから、何か問題事に出会った時には、まず自分の中に問いかけることを優先するべきです。嘘や駆け引きのない本当の想いを自分の中に問いかける。そして、その正直を生きること。今の世の中（人間の世界）には嘘や駆け引きが沢山ありますから、行き詰まることもあります。しかし、正直を生きている人の人生には、問題事が自動的に消えていく仕組みが出来てくるのです。

自然の仕組みと人々が生きている仕組みは別々だと人々は思っています。しかし、宇宙があつて、銀河があつて、この自然があつて、私たちは生きているのですから、私たちの仕組みも自然と同じ仕組みであるはずですが。私は元々お百姓ですが、自然と付き合っていると自然は嘘をつきません。とてもわかりやすい世界です。そして、自然は全てがつながっていて平和です。それは善意であり愛であり調和で成り立ち、お互いを存在させ合うという世界です。

それに引き換え人間は、嘘をつき駆け引きをして、「自分だけが良ければいい」という生き方をしがちです。それが自分の幸せを掴むことだと思っている人が多くいます。しかし、それが自分のまわりに問題事を引き寄せている種だと気づく必要があります。そのために、自分の目の前に現れてくる問題事から自分を知り、しっかりと内面を見つめ、内にある本当の声を聞く。その時に、自然のように平和で調和のための気づきに行き着くのです。

この世界が始まり、世界は創られていきました。地球に生命が誕生し、私たちの祖先が出来、人類が誕

生し、そして今私たちがいます。この世界は増えることも減ることもなく、循環し、時空を形成しながら存在しています。これまで一度も途切れることがなく、未来に向かって進んでいきます。私たち人間も、その中で創造され維持されています。ところが、人間が自分の側からしかものを観ないで特定した捉え方をすると、人間はこの世界の仕組みから切り離されていきます。皆が「光の子ども」であり「土の子ども」であり自然の中で生かされているのに、自分と人、人と自然を区別しています。自分が他と同じである、ということにまずは気づく必要があります。つまり、問題事というのは区別するところから始まり、現れてくるのですから、自分の中にどんな種があるのかを見つめ、それに気づいて取り去っていけば、誰でも調和的で愛ある人になれるのです。

誰の中にも、宇宙が始まってから今までの全ての真理の情報が入っています。それは、知識としてではなく、知恵として湧き出てくるものです。だから、意識を大きくしエゴを小さくすると、自然に気づきとして真理が湧き出てきます。私の中に無限の泉があります。そして、あなたが必要な問いに何でも答えることが出来ます。しかし、あなたの心の器の分だけしか出てきません。つまり、あなたが私の中から真理を引き出しているのです。今、この時間がそうですね。

そうやって、宇宙を構成している私たち誰の中にも真理があります。あなたたちの中にも真理があるのです。人間たちはまだそのことに気づかず、欲望で自分を縛ってしまい、狭い世界に自分を閉じ込めています。今ある色々な問題は、エコビレッジの取り組みのような運動によって解決されるようにも見えますが、最終的には人間の気づき、目覚めによって解決され、そして自覚こそが本当の目的なのです。過去の偉大な聖者たちが私たちに残してくれたような価値ある精神が、私たち一人一人の中にあるということに気づけば、私たちはこの世界の制度を変える必要はないのです。全ての問題は心の気づき、真理の目覚めにより解決されるのです。

ところが、問題事を全て解決した世界は楽しくない世界になるのです。神様は、光や天国だけだったら自分の姿がわからないので、光に対して闇を、天国に対して地上を創られました。その仕組みを私たちが知り、ゲームのように楽しめばいいというのがこの世界です。それを知らないと、問題事が苦痛だけになったり、同じ星の住人でありながら戦争をしたり、自分で自分の命を絶つようなことになってしまいます。「これは学びのためのゲームだよ」と皆に伝えるために、私は命を与えられていると思っています。

「実践するためには具体的に何をしたらいいのでしょうか？」ということですが、自分の心と対話することです。そして、自分の中に駆け引きや嘘の心があったら取り去る作業をしていけば、人はどんどん目覚めて高い存在になっていけるのです。精神性が幼いまま大人になり、お医者さんや大学の先生をしたり、政治家をしている人たちが沢山いて、知識や仕組みが大事な社会になっています。そういう意味では、人類はまだまだ幼いと言えるでしょう。

霊的な世界から捉えると、太陽系や銀河の中にある魂たちは、成熟した大人としての存在です。これから1000年、2000年、3000年と経っていくと、人類も成長して、この太陽系や銀河の運営に参加してい

くような時代も来るはずですが、しかし、人々には「地球人」という意識すら、まだ保っていません。地球は一つの村であり、一つの命であるのです。そして、私たちは皆家族です。地球上で戦争をするということは、私たちの右手と左手が殴りあっているようなものです。どちらが痛くても自分の痛み、どちらが勝っても自分の勝ちであり負けである、というこの世界の仕組みに気づいたら、こんな馬鹿馬鹿しいことはすぐにでもやめられるはずですが。

内側から求めることは、人間は十分に出来ています。これからは、外側から私たち人間の存在を観ることにより、人類に求められていること、そして託されていることに気づいていくことが大切です。具体的なことは自ずとついてくるものです。

ミーシャ：

個人的に興味があるのですが、神様からのメッセージを受けることに対してどう思っているのでしょうか？

いさどん：

始めは、自分がそういうメッセージを受けるものである、ということが信じられませんでした。世の中にはもっと優れている人たち、力のある人たち、有名な人たちがいるのに、なぜ自分のように何でもないものにそういうメッセージが来るのか、本当に信じられませんでした。しかし、私が世の中をずっと観察してみると、お金や物を沢山持っている人や優れている（今の社会で評価される）人たちが世の中をリードしてきました。ところが、自然はそういった優劣に関係なく、植物も動物もバクテリアもカビすら、堂々と自分を表現して世界を担い、創っています。そして、どんなところからもこの世界の真理を語りかけてきます。そこで気づけるのは、これからは何でもない人たちがメッセージを発信し、世の中を創っていく時代だということです。教祖と信者、医者と患者、教授と学生というように優劣があったら、いつまでたってもこの世界が平等であることが表現されません。だからこそ、何でもないものである自分が、そういう立場をいただくのにふさわしいということです。そして、それは信ずることによって達成されるのだと気づきました。

面白いエピソードがあるのですが、私の両親にとって私は、お金も上手に稼ぐし親孝行もする、とても良い息子でした。ところがある時、「この世の中のために人々のために自分は生きるんだ」と言い出しました。父親は私の頭が変になってしまったと思い、私に言いました。「日本という国は大きいんだぞ。そして、世界はもっと大きい。そんな大きな世界におまえは何が出来ると。いいかげん、そんな馬鹿なことは言っていないで、自分の仕事を真面目にやって家族を大切にしてください」と父親は嘆き語りました。そこで私は父親に伝えました。「そういうお父さんみたいな人が沢山集まって、今の世の中が出来ている。誰一人としてそういうことを言う人がいなければ、世の中は変わらない。僕には絶対出来ることがある。この世界に 60 億人の人口がいたら、60 億分の 1、つまり自分一人分だけこの世の中を変えられる。始めはたった一人でも、それが二人になり三人になり四人になり、全ての人に伝わる可能性が広がっていく。お父さんのように『どうせダメなんだから』という人ばかりではこの世界は変わらない」と言いました。そうしたら、父親は「おまえにはつける薬がない」と呆れて、あきらめてくれました。父親があ

きらめてくれたおかげで、私はまだこれをやり続けることができます（笑）。

ミーシャ：

その後、お父さんはいさどんをサポートしてくれるようになったのですか？

いさどん：

なりませんでしたね。彼が活着ている間にこれを理解してほしかったのですが、理解せずに亡くなりました。しかし、亡くなる一週間前に、病院のベットで母親に「本当は彼の言うことの方が正しいのかもしれない」と言って旅立っていったのです。そして、父親の葬式の夜、仏壇に向かって彼に語りかけました。「死んでそちらの世界に行って何かわかった？」と聞きました。そうしたら、「これで良かったそうだ」と父親は答えました。彼は活着ている間、私の心を理解しませんでした。しかし、神様は私の大切を理解しない人を私の身近に置くことによって、私に人の色々を教えてくださいました。外の人々は本当のことをなかなか見せてくれないものですが、私の両親は、二人してエゴや対立をあからさまに見せてくれました。私が沢山の人の相談に乗って話を聞くよりも、両親からの方が沢山人の姿を学ぶことが出来ました。だから、父親が「これで良かったそうだ」と言った時に、それまでの私は父親に対して大変不満を持っていましたが、「父親は神様のお使いだったのだ」と気づいたのです。

ミーシャ：：

私も、お父さんの魂とわかり合えたことをとても嬉しく感じます。

いさどん：

私たちは肉体を持っているので、心と心が通じ合うのに形から観てしまいます。しかし、実は私たちの体の中にある魂が語り合っているのです。そして、魂が活着ているのです。けして口や目や皮膚が語りかけているわけではありません。だから、「その存在はそこにある」ということを理解出来れば、死んだ人とも神様とも対話することが出来るのです。宇宙にもそういった魂が沢山います。地球にだけ魂があるわけではありません。

ミーシャ：

ということは、お父さんの魂とだけということではなく、色々な魂と話すことが出来るのですか？

いさどん：

そうですね。自分に縁のある魂とですね。

ジェン：

絆ですね。

いさどん：

はい。そういった魂がつながってこの世界が出来ています。私たちの姿を外から見たら肉体しか見えま

せんが、実は魂というものが設計図となってこの肉体を創っています。だから、肉体をなくしても、私たちは存在し続けます。ただ、この世界に執着し続けると、肉体がなくなってもそのことが理解出来ず、「肉体を持ち続けている」と迷うような魂もあります。肉体と魂をつなげて、両面から私たちの存在を捉えることが大切です。

ジェン：

次に、木の花ファミリーの宗教観についてお聞きしたいのですが、メンバーは特定の宗教に所属するのではなく、自然や地球の意志を信じているのですか？

いさどん：

そうではありません。それも宗教の概念の一つでしかありません。私は最初、インドの私の精神的な師であるブッダから学びをいただきました。しかし、今自分が語っているのはキリスト精神です。そして、過去の偉大なメシアたちは、同じことを語っています。

ミーシャ：

私も全く同じようなことを感じていました。皆さんから感じられるのは、キリスト教のようでもあり、過去のメシアたちが言っていたことでもある、と同じことを感じていました。

いさどん：

それは、宇宙が一つだからです。そして、神様はお一人だからです。違う捉え方をすると、この世界は無限な存在が連鎖する世界です。日本では八百万と言いますが、その両面が同時に成立する世界です。世界には仏教、キリスト教、イスラム教、ヒンズー教と色々な宗教がありますが、一つの宗教の視点からこの世界を観れば、その範囲でしか世界を理解出来ません。しかし、全体をつなげてこの世界を観ると、自然であったり、仕組みや法則であると捉えることが出来るのです。

ミーシャ：

ということは、ここでは特定の宗教を信仰しているというわけではないということですね。

いさどん：

はい。宇宙の中に存在している皆が仲間という考え方です。木の花ファミリーの「ファミリー」は、そういった考え方から来ています。一つの命の中にあるファミリーです。そうやって命をつなげて全宇宙を一つの命と捉えた時に、その命がいくつかに細分化されて私たちがいます。「命」という文字は、日本では「みこと」と言って神様のことです。「木の花」というのは富士山の主神である「木花之佐久夜毘売命（このはなさくやひめのみこと）」からいただいています。

ミーシャ：

「命」という形は、富士山みたいですね。

いさどん：

そうですね。初めて気がつきました（笑）。神様はこの命の仕組みを善意の仕組みとして創られました。そして、愛を表現しているのです。全てが善意であり、つながり、つながることが調和です。その仕組みを使って全宇宙をつなげ、この世界を存在させています。命こそが神の存在であり、私たちはその神の一部です。ですから、宗教はそろそろ一つにならないといけません。

ミーシャ：

私も心からそう思います。

いさどん：

今、そういった考えに気づいた人たちが沢山現れてきています。時代はそういう方向へ向かっています。

ジェン：

最後の質問ですが、ここは食については自給自足出来ており、メンバーが互いに助け合い支え合いながら暮らしています。でも同時に、例えば車やパソコンを購入するのに、コミュニティの外ともつながっていく必要が出てきますよね。そこで、ここが外と持続可能な関係を築くために鍵となることは何だと思えますか？この中では循環が行われており、皆が支え合って暮らしていることは理解出来ますが、その関係を社会の中で拡大していくことは可能だと思えますか？

いさどん：

木の花の存在について、私たちなりの捉え方があります。それは、生活すること自体が神様の意志によって行なわれている、ということです。ですから、目の前にある材料から少し先を判断し、見通しを立てることはあっても、将来の予定や計画を私たちは立てないようにしています。ただ、私たちはマニャックで私たちのためだけの閉鎖的な世界を創ろうとしているわけではありません。私たちの体の中の血液が循環することで、体の全ての細胞が健全であるように、世の中での血液はお金です。お金はとても便利がいいものですが、一か所に偏ってしまったり、ある所から滞ってしまうと、体の病気と同じように、社会にも不平等や不健康が生まれます。私たちは社会から閉鎖された世界を創るのではなく、新しい社会を創っていくための役割を与えられているわけです。ですから、この社会システムの中においてお金や外との関わりを通し、こういった暮らしを伝えていくことが出来ます。それは、とても大切なことだと思っています。極端にお金に頼らなくてもこういった生活が可能だ、ということを皆さんに伝えることも出来ます。けして原始的な生活や閉鎖的な生活を望んでいるわけではありません。

また、人類が進化させてきたテクノロジーを否定するのではなく、この世界のために有益に使えるものは使っていきべきだと考えています。一番大切なことは、個人個人の欲望を叶えるということよりも、皆で共有するということです。沢山の人が助け合って暮らすだけで、地球には優しいのです。心にも優しいし、病気の発生も少なくなります。それは、「こういう仕組みがいいんですよ」と優れた考え方として言葉で伝えるのではなく、それぞれに気づいた人たちが生活を通して実践し、見せていくこと。それが、この世界を変えていくことなのだろうと考えます。

木の花ファミリーでよく使われる言葉の中に「現場合わせ」という言葉があるのですが、「出会った出来事や材料を使って、次の一步につなげましょう。そうすることによって、次の一步が見えてきます」という考え方です。二歩も三歩も先を見ようとするから、「予定が狂った」と無理矢理進めないといけなくなってしまうのです。それは自然ではなく人工的です。ですから、自然の姿のように、その時の自分の思いのままに、その時々に出会ったことに正直に反応して生きることが大切です。それは、人間の高い能力を否定することにはなりません。それは、自然のあり方と私たちの存在が共存出来るものです。

あなたの質問に対して私が明快な仕組みを答えないのは、私たちが生きている目的は神様が持っておられるからです。実は私もそれがどんな答えに到達するのか、楽しみにしています（一同、笑）。

ジェン：
私たちも同じです！

いさどん：
わかっていたら、つまらないですよ（笑）。

ジェン：
最後の質問から素晴らしい会話になりましたね。

いさどん：
今回は、お二人がエコビレッジや持続可能な暮らしに興味があって、ここを訪問してくれたのですが、私はそれとはちょっと違う世界の話をしました。しかし、この世界は一つずつが独立して存在しているわけではありません。全てがつながって一つの世界なのです。エコビレッジという新しい生き方は、人類の生き方の一つのモデルになるものです。ただ、私はエコビレッジ業界の人としてではなく、神様の意志を表現したいだけです。

ジェン：
つまり、この場所は神様が創られたということですよ。

いさどん：
そうです。地球は一つのエコビレッジです。私たちは「宇宙船地球号」の乗組員なのですが、その乗組員が宇宙船の仕組みをよく知らなかったり、宇宙船の仕組みを壊すようなことではいけませんよね。私たちが身近に知っている癌細胞というものがありますが、これは強力で高い能力を持っています。生命の中に存在して、自分の世界をどんどん広げていきます。しかし、自分たちの世界だけを広げて、全体の仕組みを壊していくのですから、全体の機能が壊れ自分も消滅させてしまいます。私たちの中にある癌細胞は、ひょっとして地球の中にある私たちの姿なのかもしれません。しかし、癌細胞も元々は正常な細胞です。つまり、癌細胞は私たちのあり方が間違っていることを教えてくれているのです。ですか

ら、私たちもそろそろ地球にとっての正常な細胞にならないといけないのではないのでしょうか。

病気になった時に、「癌細胞さん、ありがとう」と言うと、癌細胞はどんどん減っていきます。彼ら是对立や不調和が住处なので、「ありがとう」という感謝や愛の心を感じると、居心地が悪くなって自然にいらなくなってしまいます。皆がつながること、皆が笑うことがこの世界を健康にします。反対に、皆が切れること、差別することによって、この世界の問題事は起こるのです。すごく簡単な仕組みです。これを神様はゲームとして楽しんでおられる。神様とのゲームで私は時々うつつすることがあると、「いけない、神様とのゲームに負けそうだ」と思って、「あなたはこれで私に愛を表現しようとしていらっしゃるね」と神様の心を考えるようにしています（一同、笑）。

ジェン：

最後にもう一つだけ質問をしたいと思います。神様がこの場所を創られたということですが、神様はこれから色々なタイプのエコビレッジを創られると思いますか？例えば、パソコンだけを生産するエコビレッジが出来て、あなたたちは自分たちが生産したお米とそのパソコンを、お金のやり取りなしに交換することは可能だと思いますか？

いさどん：

地球自体、さらに宇宙全体が神様の創造物であり、私たちはこの世界の滞りを見て「それは神様の意志ではない」と思ってはいけません。この世界のどんなことも全て神様の意志によって出来ており、私たちはそこでその存在を学ぶ機会をいただいています。そういう意味では、問題事は一つありません。しかし、現実には問題事に直面しています。それについてはエコビレッジや環境の分野で色々な人が活動していたり、皆がつながっていくという人々の動きによって解決されていくと思います。

私たちは、たまたまエコビレッジと呼ばれるようになり、今、日本中にそういったネットワークをつくらうとしています。メンバーのみちよちゃんは、その世界組織の理事とアジアの副代表を任されています。実際に今、ファミリーと世界中のエコビレッジがつながってきています。今後は、特に日本の中で、いつでも自分の家のように「ただいま」と訪問できるような仕組みをつくらうと思っています。海辺にあったり、ここのような里にあったり、山にあったり、都市にあたりと色々なタイプのエコビレッジがあつていいと思います。そこには、エコビレッジ同士をつなぐエコマネーであつたり、物々交換の仕組み、人材ですら皆が交換し、自分の得意分野を互いに役立てるような仕組みが出来ていくのだらうと思います。寒い地方の人たちが冬にやる事がなければ、暖かい地方に来て過ごせばいいですし、そこで自分の活躍場所を見つければいいと思います。そうやってエコビレッジ同士の交流が行なわれ、大きな家族のネットワークが出来ていきます。それが実現すると、地球上を「ただいま」と言って巡っていくことが出来ると思うのです。

ミーシャ：

それはとても素晴らしいことですね！

いさどん：

私にはもっと先の考えもあります。将来、惑星間をそうやって「ただいま」と行けるようになればと思っています（一同、笑）。そのためにはこの体を早く神様に返さないとい！

ミーシャ：

ということは、神様は地球上にいるのではなく、宇宙の外にいらっしゃるということですか？

いさどん：

いや、この世界は神様そのものです。だから、神様が外で操っているのではなく、この世界に遍満しておられ、神様の体の中に私たちがいるということです。だから、あなたも神様であり、私も神様です。そして、目の前にある食べ物は命であり、それが私になり、あなたになります。あなたは土から生まれてきたのですし、そういった自然の仕組みを動かしているのは、全て光です。私たちは光の産物である肉体を持ち、暗い人、明るい人というように、心も光の産物です。ですから、この世界は全て光で出来ています。私たちは光の子供であり、兄弟です。さらに、兄弟と区別するものではなく、同じものであると言えます。宇宙人が来て地球人を見たら区別が付きません。同じ「人間」という生き物です。私たちもそういう視点を持てば、この世界はもっと自由で、いつでも楽しめる世界です。

ジェン：

将来、木の花はただの村になり、「木の花ファミリー」という名前が大切なのではない、ということですよね。

いさどん：

その通りです。「木の花ファミリー」という名前が重要なではありません。この心が広がっていくことが大切なのです。私たちは、地球が一つの村になるようなきっかけづくりをしています。そのための役割にしか過ぎません。例えば、これから私たちはアメリカに行くかもしれませんし、中国に行くかもしれません。そこでまた、こういった新しい家族をつくれればいいだけのことです。そういう意味で、私たちは宣教師です。一つの命である地球というこの村に、私たちは共通した村人として存在しているのですから。それは人間だけではなく、植物も動物もその一員です。土から鉱物から水から全てがそうです！何だか楽しくなってきましたか（笑）？

ジェン&ミーシャ：

はい（笑）！

いさどん：

それなら皆で手をつなげますよね。中国が軍事力を増強する必要はありませんし、日本にも全く必要ありません。そういう世界を創らないといけません。日本で今起きている一番の不幸は、生きていることの本当の意味を知らないがために、自分の命を絶っていく人たちが沢山いることです。私はこれから、そういった人たちに命の大切さを伝えていきたいと思っています。そういった人たちは迷った魂になっ

て地球を覆い尽くすでしょう。屠殺された動物たちもそうです。本当の意味での天国へ行けず、汚れた魂として迷った状態で地球の外を覆うこととなります。それは、光のない闇の心です。しかし、それに光を当てれば闇は消えていきます。

私たちは大人会議の始まりと終わりに皆で輪になって手をつなぎ、光の柱を創って地球を覆うイメージをします。昔は、私が一人でそれをイメージしていました。しかし、ある時皆でそれをやろうと提案しました。「自分の心から天に向かって光の柱を送り、それぞれから放たれた光がつながり、地球を覆い尽くす。皆がその大切に気づき、地球上の皆でそれをイメージすれば、地球は光の星になる」と。その時に大切なのは、皆で手をつないでそれをイメージすることです。この世界はつながって出来ているのですから。それに倣うことで、さらに力強い光となって地球を覆い尽くすことが出来ます。これは、この世界に気づきをもたらすのに一番の早道です。皆がそれをイメージすれば、眼の前にある問題を解決するよりも早く、地球は光の星、愛の星になります。それを広げていきたいと思っています。今日はどうもありがとうございました。

ジェン&ミーシャ：

こちらこそ、どうもありがとうございました！自分たちの想像をはるかに超えた、非常に有意義な時間でした。